平成 28 年度　「全国学力・学習状況調査」夕張市の結果公表

平成 28 年 11 月

1　夕張市の参加状況

夕張市立ゆうばり小学校第６学年３３人参加

夕張市立夕張中学校第３学年３２人参加

2　調査を実施した学校・児童生徒数

・北海道（公立）　　・全国（公立）

	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,046（99.8%）	40.277	19,335　(97.9%)	1,021,910
中学校	607（99.8%）	41.236	9,464　(97.7%)	996,578
合　計	1,653（99.8%）	81.513	28,799（97.8%）	2,018,488

＊札幌市を含む

3　調査の目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

・以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

4　調査の内容

(1) 調査の対象　　小学校第６学年　　中学校第３学年

(2) 調査の内容　　①教科に関する調査「国語」「算数・数学」

・主として「知識」に関する問題 A

・主として「活用」に関する問題 B

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

(2) 調査の方式及び実施日

悉皆調査として平成２８年４月１９日実施

5　調査結果の概要

（1）小学校・教科に関する調査および児童質問紙調査

国語・算数

・国語Ａ・Ｂ、算数Ａ・Ｂにおいて、北海道の平均正答率を下回っており、昨年と比べて国語Ａは北海道の平均正答率との差が若干縮まっています。

・領域別正答率では、国語Ａの「読むこと」が北海道の正答率とほぼ同じで、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で差が広がっている。国語Ｂでは、「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で北海道の領域別平均正答率を下回っているが国語Ａより大きくはありません。

・北海道の平均正答率を下回る要因を無解答率からみていくと、国語Ａでは 5 年ぶりの出題である「ローマ字を読む･書く」問題に無解答が多く､記述問題は解答しているものの正答が得られていません。

・算数の領域別正答率では、算数Ａ・Ｂの「図形」、Ｂの「量と測定」は北海道の領域別平均正答率を若干下回っています。「数と計算」「数量関係」のＡ・Ｂと「量と測定」のＡ問題が下回っています。

・算数Ａ・Ｂを無解答率からみると、Ａ問題ではほとんど無解答がなく百分率の問題にごくわずかにみ

られます。全員が正答している問題もあり、全体的には基礎的な知識は身についています。
Ｂ問題では約半分の問題に無解答がわずかにありますが、無解答の無い問題は正答率が高いです。
記述式の問題は正答率が低く、前年度と同様の傾向がみられます。

児童質問紙調査

・テレビやビデオ・ＤＶＤを見る時間は、「１時間以上～３時間より少ない」の回答が多く、北海道と比較すると視聴時間が多い傾向であるが、「４時間以上、４時間より少ない」回答は減少傾向です。
・平日の家庭学習時間は、「１時間より少ない～３０分より少ない」の回答が多く、１時間以上の家庭学習をしている児童が少ない。全く家庭学習をしないと回答した児童はいませんが、土・日の家庭学習では「全くしない」の回答もあり、「１時間より少ない～２時間より少ない」が多い。土・日に１時間以上学習するのは時間的なゆとりがあると思われます。
・ゲームに費やしている時間は、「３時間より少ない～４時間より少ない」の回答が多く、北海道と比較すると若干少ない傾向にあります。また、「１時間より少ない～全くしない」の回答が北海道より多いです。
・挑戦意欲は、半数以上の児童が「ある」と回答している反面、「あまりない、ない」の回答が北海道の割合より多い傾向にある。失敗を恐れず挑戦する意欲や日常生活で認められる場が求められます。
・多くの児童が「自分には良いところがある」と回答している反面、「ない」と回答した児童は北海道より多く、自己肯定感が低い傾向がみられます。
・将来の夢や希望については、北海道より若干少ない傾向ですが、多くの児童が「持っている」と回答しています。「持っていない」の回答は、北海道より多い傾向です。
・学校は多くの児童が「楽しい」と回答していますが、「そう思わない」と回答している児童もおり、改善課題の一つです。

（２）中学校・教科に関する調査および生徒質問紙調査

国語・数学

・国語Ａ・Ｂ、数学Ａ・Ｂにおいて、北海道の平均正答率を下回っている。国語Ｂと数学Ａは昨年とほぼ同様の平均正答率であり、数学Ｂは差が縮まっています。
・領域別正答率では、国語Ａ「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」国語Ｂ「読むこと」の領域に差があるものの比較的小さく、数学Ｂ「関数」も同様です。
北海道の平均正答率との差が大きい領域は、国語Ｂ「書くこと」と数学Ａ「関数」、数学Ｂ「資料の活用」です。
・問題形式の無解答状況は、国語Ａはほぼ全問にわずかな無答あり、短答式の問題形式に無答がわずかに多く、国語Ｂは記述式問題に無答が多くみられます。
・数学Ａはほぼ全問に無答がみられるが、選択式問題は正答多く、短答式問題は無答が多い傾向です。
数学Ｂは、ほぼ全問に無答があり、記述式問題にも無答が多くみられます。

生徒質問紙調査

・テレビやビデオ・ＤＶＤの時間は、４時間以上の視聴が北海道より多く、全体では「１時間以上～３時間より少ない」に回答した生徒が多いです。
・平日の家庭学習時間は、「２時間以上～２時間より少ない」の回答が多く、３０分程度の家庭学習と回答している生徒もいますが、家庭学習の定着はみられます。土・日の家庭学習は「３時間より少ない～１時間より少ない」の回答が多く、土・日の学習も行われています。土・日は「全くしない」の回答もあり、小学校と同様の傾向です。
家庭学習の時間は年々定着してきており、学校の学習と家庭学習がリンクする傾向がみられます。
・ゲームの時間は「４時間以上」の回答が北海道・全国を上回っており、「２時間より少ない～１時間より少ない」の回答が多く、「全くしない」回答もわずかであるがみられます。

テレビを見る時間・ゲームをする時間の減少から家庭学習の時間へ移行する状況がみられます。

・挑戦意欲は北海道・全国を若干上回っている反面、少数ではあるが意欲のない実態もあります。

・自己肯定感は北海道・全国を下回り、自己肯定感の低い傾向がみられます。

・「将来の夢や希望がある」の回答は北海道・全国と同じような傾向がみられ、ほとんどの生徒が夢や希望を持って学校生活をおくっていますが、そうでない生徒もいることも実態です。

３　結果の考察

教科の調査では、小学校・中学校ともに全教科が北海道の平均正答率を下回る結果になりました。領域別平均正答率では昨年の差を縮めている領域もあり、基礎的・基本的な知識の定着が図られており、引き続き基礎・基本の確実な定着が望まれます。

児童生徒質問紙調査では、中学校にも家庭学習が定着傾向にあり、小学校・中学校ともに学校の取り組みに成果がみられます。小学校では、バスダイヤの改正に伴うバス待ち時間を放課後学習として活用する取り組みが行われており、スポーツ少年団は活動開始までの時間を学習にあてる奨励をしています。このような地域と学校が連携した取り組みが家庭学習等に連続されることを願っています。

毎年実施されてきた本調査は、平成２９年度も悉皆調査として実施される通知がありました。目的にもありますように本調査は義務教育の機会均等とその水準の維持向上と教育施策の改善及び教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるものです。

調査の結果は、子どもの力の一部であり、すべてをこの調査結果で判断するものではありませんが、教育委員会や学校は結果を真摯に受けとめ、子ども一人一人が夢と希望を持って自立のステップを確実に歩むことができるよう教育施策を改善し、学校と家庭・地域の連携を一層進めて夕張の子どもの学力向上に取り組んでまいります。

(平成２８年度全国学力・学習状況調査結果分析・公表　　夕張市教育委員会教育係)